

学内にワサビ棚田

県立大環境科学研究所 人工栽培へ苗植え付け



ワサビをミニ棚田に植え付ける学生
＝静岡市駿河区の県立大

静岡県特産のワサビの人工栽培と環境美化を目的に、県立大環境科学研究所はこのほど、静岡市駿河区の同大に水耕栽培装置を備え付けたワサビのミニ棚田を設け、学生が苗を植え付けた。砂利を敷き詰めた約1平方メートルの容器を3段に組み合わせた棚田で、周囲を防虫ネットで覆った。棚田を下った水は地下に流れ、クーラーで冷やされた後にポンプでくみ上

げられ、再び棚田に流入する仕組み。屋根にはフィルム型太陽電池を備え付け、今後は水を循環させる電力源として活用する。

用意したワサビの苗は、甘辛く粘りけのある「真妻」と辛みの強い「石だる」。伊豆市のワサビ生産者飯田哲司さん(41)の指導で、同研究所の植物環境研究室と環境美化活動団体「環境サポーターズ」の学生が75本の苗を植えた。いずれも来年秋ごろ収穫予定。

同研究所の坂田昌弘所長(58)は「省エネかつ低コストでワサビを人工的に育てる技術を研究し、傾斜のきつい棚田での重労働に悩む生産者の役に立ちたい」と話している。